

令和4年度 第1回 安曇野暮らし支援協議会 会議概要

- 1 協議会名.....令和4年度 第1回 安曇野暮らし支援協議会.....
- 2 日 時.....令和4年5月27日 午前10時から午前11時まで.....
- 3 会 場.....安曇野市役所 2階 会議室201.....
- 4 出席者.....横田委員、北林委員、安谷屋委員、浅川委員、醍醐委員、中嶋委員、宮崎委員、
松本委員、宮澤委員、(小林委員代理 綿貫様：松本公共職業安定所).....
- 5 市側出席者.....移住定住推進課 赤沼課長
移住定住推進係 山田係長、平野主査
- 6 公開・非公開の別.....公開.....
- 7 会議概要作成年月日.....令和4年5月30日.....

協 議 事 項 等

[次 第]

- 1 開 会
- 2 委員等の交代
- 3 会長あいさつ
- 4 会議事項
(1) 令和3年度の実績・事業報告について
(2) 令和4年度の計画について
① 安曇野市
②各団体
(3) その他
- 5 閉 会

[会議概要]

○ 委員等の交代

松本公共職業安定所から選出の委員が、高山委員から小林委員となった。
小林委員は都合により欠席のため、綿貫所長が代理出席された。

事務局も、市の組織改編により移住定住推進課が新設され、政策経営課から引き継ぐことになった。

○ 会議事項

(1) 令和3年度の実績・事業報告について

事務局から事業内容と行政サポートによる移住者の実績を報告

【質疑応答】

- ・おためし住宅を利用し移住した人の割合について、移住を決めてから利用した方も含まれていると思うが、この数字はそれを除外したものなのか。
→除外していない。また、移住者リストと氏名を突合しているのに、漢字の登録などにより同一人物がうまく突合できていない可能性がある。

- ・おためし住宅を無料で使えることは民業圧迫の面もあるといえるので、今後どうするか考えていかななくてはならない。
- ・おためし住宅は、何軒あるか。
→ 1棟の建物だが、南棟と北棟に分かれており、同時に2世帯まで受け入れることができる。

(2) 令和4年度の計画について

① 事務局から市の事業予定を説明

【質疑応答】

- ・現地体験会については、自己負担は高額だが多くの方が参加している。実際に移住された方の家を見ることが好評だった。観光的な事業は移住に結びつかないので、空き家見学会と結びつけるなど、観光ツアーではない独自企画が必要ではないか。
- ・おためし住宅については、旅行業法との関係で無料にしたかと思うが、国の方からも、一定の要件を満たせば旅行業法の適用除外にするという指針も出ており、実績が伴わない中で無料で続けることがよいのか。例えば必ず相談するというメニューを作ることや、他にもやり方はあると思うが、一定の費用を負担してもらうことを考えていかななくてはならない。これまで出た意見としては、会員制にして、登録費用を負担してもらうこと、相談会を必ず行いその費用の実費を負担してもらう、ふるさと納税の半額以上のことを何か行うといったことがある。
→ 課が新設され、空き家の係と同じになったため、空き家見学会と絡めたツアー等できればよい。
→ 費用についてはこちらも懸案事項としている。本会議での提言や他市町村を参考にして、改善していきたい。
- ・簡易宿泊の免許を取る方法もあるが、管理は誰がするかという問題がある。
- ・体験会は、ただアウトドアというより、移住した方の家に寄ったことや、意見交換が好評だった。アウトドアは残しつつ、移住した方の話を聞く機会が大事なので、ミックスしてできればよい。
- ・試しに泊まる施設が増えている。市の中でそういった施設が増えれば、結果的に民業圧迫となる。民間に売却するなど、市とは離れたところで行う方がよい。
- ・移住大使は今後どのような活動を行う予定か。
→ 移住セミナーに参加していただくこと、スポーツという観点で移住の理由であるアウトドアを推し進めていくこと、高校生に安曇野市にはこういうところがあるという魅力を伝えていくこと、プロモーション動画への出演等を予定している。
- ・安曇野の魅力を知っている人は多いが、地域コミュニティなどわからないもののハードルが高く移住が進まない。PR動画については、篠原さんに地域のお祭りに参加してその良さを発信してもらうなど、そういった視点で作成してもらいたい。

② 各団体

【安曇野市商工会】

創業者の支援を行っている。年数件程度相談があるが、県外の方の相談はあまりない。

【長野県宅地建物取引業協会】

各自治体に人員を派遣している。

【全日本不動産協会】

移住者だけではなく、日常業務として協力を行っている。

【長野県建築士会】

住宅、移住など全般的な相談窓口の事務局があるので、今後サポートができればよ

い。無料なので、有志を集めてハードルを下げた窓口を作ろうと考えている。

【安曇野ふるさとづくり応援団】

会員の半数は移住者。地域を知ってもらうため、ふるさとウォッチングを行っている。昨年度から、ふるさと探求として子どもたちに地域を知ってもらうということを行っている。武蔵野市の中学校がセカンドスクールということで、様々な体験会（地域を知るための活動）を行った。都会の子ども達の活動をつなげていくことで将来親世代を含めた移住につながる面もあると思う。うまく市の移住に絡めてはどうか。各団体が行っている活動もホームページなどで情報発信してはどうか。

【松本公共職業安定所】

銀座 NAGANO にコーディネーターを置き、職業相談を行っている。

【松本地域振興局】

松本広域圏の自治体で、東京での相談会やオンライン移住体験ツアーを行う。各地を中継し、動画を YOUTUBE に載せる。

【安曇野市観光協会】

ゲストハウスが 10 件ほどある。移住してお店を開いている人もいと地域が盛り上がるため、移住者が増えてほしい。

(3) その他

【委員】 移住者を受け入れやすいところの掘り起こしはしているか。

→ **【市】** 明科駅周辺で地元の団体が空き家を掘り起こして、空き家の所有者に対し声かけをしている。それを使いたいという方もいるため、これを全市的に広げたい。ある地区の区長からも、人口減少に危機感を感じているという声を聞くため、そういった地域の方やふるさとづくり応援団などと協同して活動を広げていきたい。また、広報紙でも活動報告をしたい。

【委員】 地域の魅力を発見して、地域とのつながりを重要視する視点で施策を進めていくべき。空き家の活用とリンクするのはよい。

【委員】 市民生活部として一つにまとまったので、情報共有し、地域コミュニティを大事にし、進められるとよい。

【委員】 他市町村と同じではなく、何か柱を作り、安曇野市でしか行っていない施策をした方がよい。

→ **【市】** 人とのつながりを求めて来る方も多いため、そこをカバーしたい。移住をサポートする方も増えているので、ネットワーク化していきたい。次回の会議では、何かテーマを強調できるようにしたい。

<終了 11:00>

以上